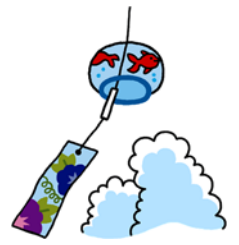


実りの秋にむけて 早めの準備をはじめましょう

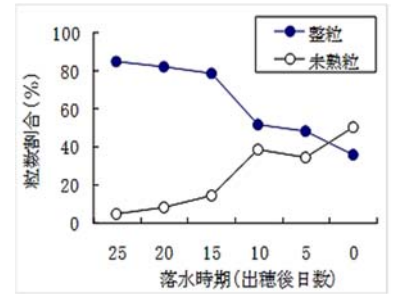


1. 今後の管理のポイント

①出穂前後はイネにとって一番水が必要な時期です。

管内で落水圃場が散見されます。早期落水は品質低下を招きます。土壤水分が低くなると「乳白粒・基部未熟粒・胴割粒」の発生が助長されるのでこの時期の水管理には十分注意しましょう。

* 品質向上のため出穂後 25 日の湛水管理を徹底しましょう！



②今年も斑点米カメムシの発生が多い見込みです。

個人防除を予定している地域では散布時期を逸さないよう、地域(支店)毎の防除計画を確認し、適期防除を徹底しましょう。

2. 早めの収穫前準備で実りの秋を待ちましょう

①作業場等の清掃を徹底しましょう。

余った肥料・農薬、作業が終わった機械等作業場に置きっぱなしになっていませんか？早めに整理整頓、整備することで慌てずに収穫作業にとりかかれます。気持ちよく収穫期を迎えるために今から少しずつ準備をはじめましょう。

②クサネム種子の混入による格下げが年々増えています。

すでに水口・畦畔・圃場内での発生が見られます。クサネムは比較的容易に引き抜けるので、見つけ次第抜き取り、種子混入をゼロにしましょう。

クサネム種子の混入は異物扱いとなり、格下げの対象となります。

北越後からのお願い

* 水稻栽培履歴の提出が8月末にあります。

書漏れのないよう作業ごとの記帳をお願いいたします。

* 気温が高い日が続いています。作業時は涼しい恰好でこまめに休憩を取るなど熱中症に十分注意しましょう。



『葉色低下注意！後期栄養確保の徹底を』

～葉色の淡いほ場では、後期栄養確保に向けて、

追加の穂肥を実施しましょう！～

こんなほ場は要注意！

- A 1回目の穂肥施用を控えめ、もしくは見送ったほ場
 B 分施肥栽培において2回の穂肥を実施したものの葉色が淡いほ場
 C 基肥一発肥料栽培で追加の穂肥を実施していない、かつ葉色が淡いほ場

1 コシヒカリ生育概況

コシヒカリの生育は、全般に草丈やや長め、茎数並の状況です。管内全域で葉色の低下しているほ場が認められることから、後期の栄養凋落に注意が必要です。

2 今後の対策

(1) コシヒカリの出穂直前の穂肥対応

出穂10日前以降の穂肥施用は、食味を低下させるため原則禁止です。しかし、今後高温気象が予想されることから、栄養凋落の危険性が高い場合に追加の穂肥施用が必要になります。

- ① ほ場をよく観察し、分施肥栽培では3回目穂肥、基肥一発肥料栽培では追加の穂肥の可否を判断しましょう。
- ② 上記のA～Cに当てはまるほ場は、後期栄養凋落による品質低下が懸念されるので下表を参考に出穂3日前(走り穂が出る頃)までに追加の穂肥を実施しましょう。
- ③ 適正な水管理を実施し、稲体と根の健全化を図りましょう。
- ④ 出穂10日前以降の穂肥施用は、節間長の伸長にほとんど影響しません。
- ⑤ 出穂期以降の追肥は食味低下につながる恐れがあるため行わないでください。

【表】 コシヒカリの追加穂肥対応

肥料の種類	追加(分施では3回目)穂肥判断目安	施用時期及び施用量
化学肥料	出穂3日前葉色が32 (葉色板4.2)以下	出穂3日前(走り穂が出る頃まで) N:1.0kg/10a
有機質肥料 (有機50%のもの)	出穂6日前葉色が33 (葉色板4.3)以下	出穂3日前 N:1.0kg/10a
有機質肥料 (有機100%のもの)	出穂6日前葉色が33 (葉色板4.3)以下	出穂6～3日前 N:1.0kg/10a

(2) 水管理

- ・出穂後25日間は、カドミウム吸収抑制のための湛水管理を行いましょう。ただし、高温が続く場合は水の更新を行い、根の活力維持を図りましょう。
- ・出穂・開花期までは水を最も必要とする時期です。この時期の水分不足は、減収や稲体活力の低下に繋がります。湛水管理を徹底しましょう。
- ・輪番制地域では、地域の用水計画に合わせた水管理を行ってください。